

特別支援教育だより

三重県立特別支援学校伊賀つばさ学園・教育支援部 2016.10.14 第4号

秋の深まりを感じる季節となりました



早や10月も半ばとなり、日毎に秋の深まりが感じられるようになりました。

本校では、つばさ祭(11/12)に向けての取り組みが始まっています。2学期は、つばさ祭をはじめ様々な行事が予定されています。子どもたちもいつもと違う動きに見通しが持てず、戸惑ったり、不安になったりすることもあるように感じます。子どもたちの戸惑いや不安が少しでも軽減でき、安心できるような学習の場作りをこれからも配慮していきたいと思います。

さて、今年も夏季休業中に名張市や伊賀市の巡回相談に協力させていただき、保護者の方の就学への思いを聞かせていただきました。「わが子にとってよりよい就学先はどこか」、保護者の方の悩みや期待、不安など真剣な思いを聞く中で、4月に「この学校に来てよかった。」と思ってもらえるような教育環境を整えていけるよう、私たちもこの思いを真摯に受け止めて取り組んでいかなければならないと改めて感じました。

また、夏季休業中に公開研修会を開き、伊賀地域の保・幼・小・中・高の先生方、関係機関及び県内の特別支援学校の先生方にご参加いただきました。ありがとうございます。本校の研修部と支援部でそれぞれ講師の先生をお願いし、研修会を2つ行いました。どちらも多くの方々が参加され、大変有意義な会だったと思います。支援だよりの発行が大変遅くなりましたが、今号は、その夏季研修会(講演会)の概要をお知らせいたします。



研修会①「合理的配慮」の概要説明

多数ご参加頂きありがとうございました。県教育委員会事務局の担当者から、障害者権利条約や障害者差別解消法、合理的配慮についての基本方針や対応などについて説明して頂きました。そのあと、小グループに分かれ、具体的事例の中でどのような合理的配慮ができるか考え、意見交換を行いました。

グループ討議①<次年度に、中学校の支援学級へ通学したい希望の保護者から子どもの校内の安全確保について合理的配慮を求められたが、どのような合理的配慮ができるか。>

- ・ 支援員をつける、クラスメイトの付添(本人に確認のうえ)、移動付添
- ・ 分かりやすい表示の工夫(本人と話し合いながら)
- ・ 全校集会等で生徒全員に伝え、助け合うといった周囲の理解(教職員・生徒とも)、情報共有
- ・ 視覚支援、色や大きさの工夫、コミュニケーション・ツールの活用、iPadの活用
- ・ 時間的な配慮(周囲の理解)
- ・ 引き継ぎ(小学校から。落ちつく物等、実態把握をしっかりと)
- ・ 教室や学習の場所を配慮する(近いところ、1階で済むように)
- ・ 廊下等の整理(余分な物を置かない)、廊下の床面を滑らないようにする(色つきの滑り止め)



グループ討議② <先生の話をしっかり聞き、ノートをとっている生徒が、テストでは思うように点数がとれない> ことについて考えられる原因

- ・(話は聞いているが) 聴覚からの情報が入りにくい。
- ・読解力がない(尋ねられていることが理解できず、うまく表現もできない。)
- ・何が大事か分からない、ポイントを押さえられない。
- ・黒板を書き写すのがしんどい。
- ・活用力(応用力、対応力)が弱い。
- ・こだわりがあり、問題が解けないと次に進めない。
- ・(LD等の特性により)問題用紙が読み取りにくい、実は漢字が分かっていない。しっかり問題を読んでいる。
- ・テストの形式に慣れていない。(解答用紙が別だと分からない?)
- ・本人の一番合っているやり方であるのか(視覚優位?聴覚優位?)



グループ討議③ <討議②について合理的配慮の具体例>

- ・アウトプットの課題を克服するために、授業の中で教え合いの時間を取り入れる。
- ・テストと解答用紙の一体化(解答用紙を別にしない。)
- ・テスト問題を読み上げる。
- ・切り替えができるようなグッズを使う。
- ・他の生活上の困り感を聞き取る。
- ・教師と面談する中で原因を探す。配慮してほしいことを確認していく。
- ・本人と合意の上で、個別の課題を与える。
- ・授業中の本人の困り感を対話することで聞き出し、手立てを一緒に考え話し合う。

研修会② 福祉事業型「専攻科」「エコール神戸」 吉川 史浩 先生

『エコール神戸』は「もっと勉強したい」、「お兄ちゃんやお姉ちゃんみたいに大学に行きたい」、「もう少しいろいろ体験させてやりたい」、「大学のようなところでもう少し学ばせたい」、「働く土台になる力をつけさせたい」など、青年たちや保護者の願いを受けて、長田の地で6年前にスタートしました。

当日、いただいた「エコール神戸」の学園要覧には、「主体的に学ぶ」「豊かな体験」「仲間と共に」、3つの理念が大きく掲げられており、それぞれの理念について、写真入りで具体的に紹介されていました。以下はその内容です。

- 「主体的に学ぶ」 学生自身の学びたいという要求を大切にし、自分たちで話し合い、運営できるような学びの場である。(研究ゼミ、選択講義、調理実習、野外活動など)
- 「豊かな体験」 生活体験、社会体験、スポーツや文化の体験を多く取り入れ、豊かな体験を通して、人間として成長できる場である。
(エコール新喜劇、キャンパス交流、オータムキャンプなど)
- 「仲間と共に」 青年期を生きる彼らが、仲間とともに楽しく協力しあって活動する。
(学生自治会、土曜日活動、部活動、卒業旅行など)



講演では、それぞれの理念について、具体例をあげて、説明していただきました。スライド写真も

あり、学生たちが自主的に活動している姿が目には浮かぶようでした。

講演を通し、こうした場で、学生一人ひとりが自分で学び、体験することで、肯定感や達成感を積み重ね、成長していけることを改めて感じました。

以下、参加いただいた方々からのアンケートの一部を掲載させていただきます。

- ・自分の思いが語れるようになっていく姿、失敗をうけとめてさらにチャレンジしていく姿に感動した。
- ・「待つ」ことは本当に難しいです。でも主体的に動くということの大切さは日々感じています。活動が本当に本人主体で行われており、その中で成長する姿がよくわかった。「待つ」ということの大切さを改めて感じた。
- ・生徒の自主的な学びが、さらに活動の幅を広げているのだなと感じた。
- ・高等部を卒業してすぐに社会にはではなく、生徒がさらに学べるということは大きな意義がある。
- ・徹底して、任せていること、そこから、真に人間としての成長がある。

最後に、3つの理念を実現するためのキーワードを紹介していただきました。そのキーワードの一つに「とにかく信じて待つ」という言葉がありました。その言葉の中に『エコール神戸』のすべてが含まれているように感じました。一人ひとりの内にある力を信じて「とにかく信じて待ち続ける」こと。その言葉を深くかみしめ、日々子どもたちと向き合っていきたいと思いました。

地域生活支援連絡会がありました 8/30 伊賀、8/31 名張



今年も8月30日に伊賀庁舎、8月31日に本校で地域生活支援連絡会を開催しました。本校のPTA主催で地域の小中学校にも声をかけさせていただき、関係機関の方々にもご協力いただきました。

ご参加ありがとうございました。今年度も、「災害発生時の支援体制について」というテーマで、伊賀市は総合危機管理課の方、名張市は企画財務部危機管理室の方に情報提供をしていただきました。同じテーマですが、それぞれの市で特色のあるお話が出ましたので、紹介させていただきます。

(伊賀市)

まず、災害発生時の支援体制についての伊賀市の取組について説明があり、伊賀市の場合は福祉避難所として9施設と協定を結んでいるとのことでした。また、災害時要援護者名簿登録の制度(災害時要援護者台帳)の申請を9月ごろから行っているそうです。安否確認や地域の避難訓練の際に使える名簿で、9月15日発行『広報いが市』に掲載されているそうなので、ご確認ください。保護者の方からは、福祉避難所での物資、人材の提供に関する心配の声がありました。それに関しては、「障がい当事者の人権を大切にする団体があり、有志の人たちが物資を集めてくれる活動をしている人もいます」という情報や、「避難される際は3日分くらいの準備はご自身でもしていただきたい。それ以外に必要なものがあれば施設管理者、福祉避難所にいる市の職員に伝えていただく、福祉避難所の管理者から災害対策本部に直接言っていただく等で対応させていただく」という返答がありました。避難生活の中で、市と関わりがなくなる、連絡が途切れるということはないということで、保護者の方も安心していただいたようでした。名張市からは、服薬をしている方は、何の薬を飲んでいかわからなければ処方もできないということで、お薬手帳をきちんと管理して持ち歩き、災害時、必要なときに提示できるようにしておきましょうという呼びかけがありました。また、社会福祉協議会では、『わたしの安心シート』を入れるための容器を配っていて、シートや薬等を入れて

保管、万が一のときに持ち出せるというものがあるそうなので、そちらも併せてご活用いただければと思います。（※伊賀市社会福祉協議会HPで日本語版の他、スペイン語、タイ語、ベトナム語、ポルトガル語、英語、韓国語、中国語版のダウンロード可）福祉サービスの利用、情報について保護者の方から、拡大している事業所など、もう少しわかりやすく情報発信していただければというご意見がありました。それに関しては、県の障害福祉課のホームページに情報が掲載されていて、送迎の有無、職員体制などが毎月更新されていて、変更があるところは赤字で書いてあるとのことでしたので、ご確認いただければと思います。

（名張市）

まず、災害発生時の支援体制についての名張市の取組について説明がありました。名張市では、小学校や市民センターなど 50 か所が避難所に指定されており、市内の福祉施設など 13 か所が福祉避難所に指定されているそうです。災害発生時には、市の職員全員が対応にあたる予定で、防災ホットメールや FM なばりさんと協定して、災害情報や緊急情報など情報発信をしていくとのことでした。備蓄食については、お米 10000 食、一番多い所で 900 人 3 日分があり、これ以上の食料については、他県から応援をもらう予定だそうです。「食事が普通食では難しい人への対応については？」という質問に対しては、「アレルギーについては対応できるようにしている。ご飯については、アルファ米なので水の加減で柔らかくもなり、食べやすい硬さに調節することができます。」というお答えでした。福祉避難所については、福祉事業所さんとも話し合いを行い、実際にどう人を動かしていくのか、詰めて話をしていく予定とのことでした。

福祉事業所については、配布された資料をもとに就労支援 B 型事業所や日中一時支援などの利用について説明していただきました。福祉サービスについて、名張市と伊賀市のガイドブックが市のホームページに掲載されており、福祉サービスすべてを網羅しているため、それと並行して相談してもらうとよいとのことでした。病院併設の施設について、付き添いがなくても預けられるところがほしいなどの要望も上がっており、今後検討していくとのことでした。国連での批准や事件などを受けて、制度がめまぐるしく変化しており、市では広報活動など積極的に情報提供を行っているため、アンテナをはって情報収集をしてほしいとのことでした。また、障がいのある人ない人が交流する中で、情報を共有していくことが大切だと話されていました。

それぞれの市で、いろいろな場面を想定して災害対策は進められていますが、今回の連絡会は当事者からの質問や声を防災対策の方々に直接届ける良い機会となったと思います。保護者の方々、関係機関の方々、活発な意見交換をありがとうございました。

事業所対象学校見学会ありがとうございました

6月28日に、子どもたちが放課後デイや日中一時などで日頃お世話になっている事業所対象に、学校見学会を行いました。これはつばさ学園としては初の試みで、子どもたちの学校での様子を観ていただき、今後の支援の参考にさせていただくことを主眼に置いたものです。事前に聞いた参観希望の児童生徒名を元に、その時間帯にその子がどこで何の教科の学習をしているかを事業所ごとに一覧表にし、自由に観ていただきました。

たよりに掲載するのが遅くなり、お礼を申し上げるのも大変遅くなって恐縮ですが、ご参加いただいた事業所職員の皆様、ありがとうございました。また、アンケートにもご協力いただき、あり

がとうございました。アンケートを見ると、事業所で見せている様子や表情が学校とは違うお子さんが多いようで、「子どもの新しい面を見ることができてよかった」とのご回答を多数いただきました。

アンケートの中でご質問やご意見をいただいたのですが、どの方からのご質問だったのかがわからないので、この場を借りてお返事させていただきたいと思います。



Q：生徒、先生方、職員の方の人数を知りたいと思いました。

A：小学部児童36名（内、12名重複）、中学部生徒44名（内、7名重複）、高等部生徒68名（内、4名重複）で、全員で148名在籍しています。

「先生方」と書かれているのを「直接お子さんにかかわる教員」と理解すると、養護教諭、養護助教諭、栄養教諭、実習助手含めて86名です。（非常勤講師は除きました）

本校で勤務するすべての「職員」数は、137名です。

Q：コミュニケーションツール、何を使っているのか、どういう方向で作っていったらよいのか教えていただけたらと思いました。

A：コミュニケーションツールは、お子さんの実態によって様々だと思います。一般論ではなく、直接担任と話をさせていただく方がよいと思いますので、ぜひ学校にご連絡ください。担任に繋がせていただきます。

Q：一人ひとりの子どもに対して、こういう時はどう対応したらいいのかわからない時があります。

A：これも、上記と同じでご連絡ください。一緒に考えていければと思います。

（ご意見）休み時間、給食の様子も見せていただけると嬉しいです。

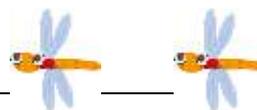
A：ありがとうございます。休み時間に関しましては、今後開始を20分早めて、休み時間からの参観ができるようにします。給食については、アンケートに書いていただいた方の意図をお聞きしたいので、またご連絡いただけるとありがたいです。「食形態や摂食指導などに関して」でしたら、ご相談ください。食堂で給食を食べている様子の参観を希望されるようでしたら、4月に給食参観で保護者の方に来ていただく機会がありますので、その際に一緒に参観していただくのも可能だと思います。

（ご意見）担当者会議、カンファレンスなど、お忙しいとは思いますが、年に一、二度でもあれば有難いです。

A：ありがとうございます。お子さんが来ている時間帯が、学校と事業所で違うので、どのような形ならもてるか、連携の仕方を考えていきたいと思っています。今後ともよろしく願います。



【今後の予定】



【11～12月の予定】

- ・11月 12日（土） つばさ祭り（14日（月）振替休業日）
- ・11月 24日（木） 小学部公開体験授業
- ・11月 24日（木） 中学部公開体験授業
- ・12月 22日（木） 2学期終業式

